**第二回島田市観光戦略プラン策定協議会　議事概要**

　令和元年10月4日（金）　14:00～16:00

島田市役所会議棟　大会議室

１．開　会

２．挨　拶
３．議　事

1. 基礎調査の実施状況について
・観光資源調査
・インターネット調査
・デジタルマーケティング手法の活用

４．意見交換（分科会）

　　・観光資源の活用アイディア、課題などについて

５．閉　会

**I.概要**

島田市観光戦略プランを策定するにあたり、必要な事項を協議するための島田市観光戦略プラン策定協議会を開催。

**II.出席確認（敬称略。順不同）**

協議会委員（高山靖子、出川恭子、三浦忠司、伊藤和則、谷津基広、塚本昭、浅井雅広、

塚本一成、吉田優太、法月秀登、杉本真美、佐藤洋行）

オブザーバー（土屋義明、勝岡聖子）

産業観光部長　谷河

事務局（観光課長　佐藤、観光政策係長　鈴木、佐藤、大畑、秋山）

策定支援業者　㈱マッキャンエリクソン　小林、齋藤

　　　　　　　㈱ヴァリューズ　子安、鳥塚、竹本

　　　　　　　㈱地域ブランディング研究所　吉田、石川

**III.議題**

**■基礎調査の実施状況について**

・観光資源調査（㈱地域ブランディング研究所）

島田市の観光を取りまく現状（関係者意識調査およびワークショップにて洗い出し）と課題を整理するとともに、島田市が有する観光資源の価値を改めて確認し、観光振興の取り組みの柱となるコンテンツを抽出する。

・インターネット調査（㈱ヴァリューズ）

島田市観光戦略プランの策定のための基礎調査として島田市の観光資源の受容性を測るとともに、STI（Special Interest Tour）の実施者を抽出し、次のステップであるカスタマージャー作成につなげる。

・デジタルマーケティング手法の活用（㈱マッキャンエリクソン）
従来の観光施策では経験や予測といった（根拠の乏しい）仮説に基づくものが多く、経過

につながらない、または成果が分からないといったことがほとんどであった。そのためマー

ケティングフレームワークを活用して施策の組み立てを行い、具体的な手法として、原則加

速的に活用が広まっている「デジタルマーケティング」を導入する。

＜デジタル導入のメリット＞

①　インターネットを活用している消費者であれば誰でも広告を届けることが可能

②　施策を打つべきターゲットを選択できる

③　施策の結果をデータで見ることが可能

④　施策により集計したデータを次の施策においても活用可能

**■分科会（ワークショップ）**

・目的

観光戦略プラン策定において、協議会委員の皆様より島田市観光産業の発展に向けたアイディアを出し、新たな気づきを得てプランの熟度を高め、現在進めている基礎調査の結果と合わせてより精度の高いアクションプランを作成することを目的とする。

・結果

1. 景観を楽しむ・触れる

【強み】
蓬莱橋、きかんしゃトーマス号、茶畑

【弱み】

それぞれの場所に行く交通の不便さがある。

1つの場所に滞在させられない。

**【課題・提案】**

それぞれの場所に行く交通の不便さがある。⇒ホテルはあるが、レンタカーを借りて浜松など他市に行ってしまう。島田市に滞在する方法の1つとして「歩く島田」にしてはどうか。
　そのためには目的設定やスタンプラリーなど歩く仕掛けを作らなければいけない。荷物が重いのであればコインロッカーや、島田の市民全体が声を掛けるなどおもてなしが重要となってくる。「歩く町」をキーワードに全国に発信するのは、他県でも行っていないためいいのではないか。

1. 体験・アクティビティを楽しむ

【強み】

大井川鐵道、茶畑、島田髷、大井川

【弱み】
それぞれの場所に行く交通の不便さがある。

インバウンド対応できていない。

【課題・提案】

・茶畑⇒インスタ映えを狙った茶氷（富士の名水）や茶と和菓子など掛け合わせたコンテンツを利用するのはどうか。お茶工場の見学など、PR方法をさらに検討していく必要がある。

・島田髷×和服⇒和服体験をしながら宿場町や蓬莱橋を歩くといいのではないか。
（着付けの体験場所と観光資源が離れているため、観光資源の近くでできたらいい。）
・大井川とキャンプ場⇒今キャンプは流行ってきており、需要がある。大井川＋橋を通るSLは唯一無二の景色である。河川敷もあるため整えてキャンプ場としていくのはどうか。キャンプ場になった後はアクティビティとしてパラグライダーを行う、そういったストーリーはどうか。パラグライダーは高単価であるため、売り上げ貢献にもなり得る。

1. 歴史・文化を感じる

【強み】

大井川、日本酒、産業遺産（伝統工芸）、茶畑、食やお茶、島田市民の人柄

【弱み】

それぞれの場所に行く交通に不便がある。
市民の受け身体制・関心が薄い。
夜に楽しめるコンテンツがない。

食文化に触れる場所がない。

インバウンドに対応できていない。ペット同伴が少ない。

 **【課題・提案】**

・産業遺産（伝統工芸）⇒蓬莱橋以外にも国道一号線の鉄橋や北川製鉄所などもある。歩いて回る、レンタルサイクル、金谷タクシーなど利用し回ることもできる。象印のどこでもカフェを参考に水筒を持って歩くとお茶を入れてくれるなど、そういったことも取り組んでみると面白いのでは。

台湾人はサイクリングが好きなため台湾人向けにレンタサイクルの貸出し行うのもいいのではないか。

・夜に楽しめることがない⇒蓬莱橋を夕方～夜に歩くイベントなど楽しめる場所があるといい。

**■分科会（ワークショップ：そのほかの意見）**

**①景観を楽しむ・触れる**

【強み】

富士山が見える。プラザロコは子育て世帯には居場所になっている。
季節感を感じられる。紅葉。SLときかんしゃトーマス号があるため親子で楽しめる。都

内からのアクセス。

【弱み】

日本一の大茶園に伴うイベント企画が少ない。桜トンネルの知名度が低い。景観とともにご当地グルメを楽しみたい。

**②体験・アクティビティを楽しむ**

【強み】

川根茶がおいしい。SLの汽笛の音。空港がある。高速のICがある。

【弱み】

大井川の水が清流ではない。多言語表示が少ない。レンタサイクルが駅前にしかない。自然のアクティビティが少ない。自然を活用できていない。駅前でもっとPR表示看板があってもいい。宿場町の知名度が低い。宿泊場所が少ない。ATMが少ない。

**③歴史・文化を感じる**

【強み】

旧東海道の石畳。鍛冶屋の歴史を学び歴史体験してもらう。加工されていないそのままの文化。川越文化。

【弱み】

ネーミング（どんな魅力なのか名前で伝わらない）。市民が歴史・伝統文化に無関心。祭りの知名度が低い。食文化が弱い。蓬莱橋を活用したイベントが少ない。

**Ⅳ.今後の工程**■次回の策定協議会について

・第三回目　12月13日(金)　14:00～16:00　（予定）

以上